

大雨の被害に対する事後対策について

気象災害対策 R 8—3
令和 8 年 8 月 27 日
農林総合研究センター

I 気象の概況

石川県内では、8月27日早朝から線状降水帯が発生して雷を伴った非常に激しい雨が降り、中能登地区を中心に冠・浸水被害が発生しているため、事後対策を徹底して下さい。

ただし、河川や水路が増水し危険が予想される場合は、危険箇所近づかず、安全確保に努めて下さい。

II 事後対策

〈要旨〉

- 1 倒伏した稲では、穂発芽等による品質低下を防ぐため、ほ場の排水に努めるとともに、刈り遅れとならないように適期収穫に努める。
- 2 園芸品目は、長時間の停滞水によって根腐れや根の機能低下、地上部の生育不良、落葉等の生理障害を生じやすいので、圃場内の排水を徹底するとともに、冠・浸水した圃場では、早急に防除を実施する。

〈詳細〉

1 水稻

- (1) 速やかに排水を行う。河川からほ場や用排水路に土砂が流入し、水路を阻んでいる場合は、土砂を排除し、用排水路を確保する。
- (2) 成熟期に達しているものは胴割粒の発生が懸念されるので、速やかに刈取りをする。
- (3) 倒伏した稲で収穫時期が近いものは、ほ場を乾かし、できる限り早く収穫する。穂発芽等で品質低下が懸念されるほ場では、分別し収穫・乾燥する。
- (4) 乾燥作業は通風乾燥から始め、徐々に加温し穀温が 40℃以下で乾燥作業を実施する。特に、急激な乾燥は胴割れ等の発生が懸念されるので避ける。

2 大豆

- (1) 浸水したほ場では、ほ場内や排水溝の停滞水を無くすため、できるだけ早く溝の流入土砂の除去や溝の手直しを行い、必要であれば新たな排水溝の設置を行う。
- (2) 長期の滞水は、生育遅延や根腐れを引き起こすので、速やかな排水対策を徹底する。

3 野菜・花き（トマト、白ねぎ、ブロッコリー、かぼちゃ、花き類等）

野菜・花きは長時間の停滞水に弱く、根腐れや根の機能低下、地上部の生育不良を生じやすい。また、収穫期のトマト、白ねぎ、花き等は病害による品質低下などの障害が発生しやすいので、速やかに以下の対策を実施する。

- （１）ほ場の畝間等の停滞水は根腐れによる草勢の衰えや病害の誘起につながる
ので、表面排水に努める。
- （２）冠・浸水したほ場では、根腐病、疫病、軟腐病等の被害が発生しやすくなるので早
急に防除を実施する。
- （３）流入堆積した表土が乾いて固くならないうちに中耕して、根への通気を促
す。
- （４）被害状況に応じて速効性肥料の施用や液肥の葉面散布などにより草勢の回復に努め
る。

4 果 樹（なし、りんご、ぶどう、かき、もも、くり、いちじく 等）

- （１）滞水している園では、明渠などにより速やかな排水に努める。
- （２）土壌流入が多い場合（堆積土 5 cm 以上）は、なるべく早く樹冠下の土砂を取り除き、
根の呼吸作用を助ける。

（参考）果樹の耐湿性

強	かき、りんご、なし、ぶどう
弱	もも、すもも、いちじく

- （３）収穫期にあるぶどうやなしでは、果実裂果の発生が懸念されるので以下の対策を徹
底する。
 - ぶどう：ハウス谷間の排水とハウス内の換気を徹底する。
 - な し：果実裂果が激しい場合は、裂果が終息するまで被害果の除去を控え、
裂果の拡大を防ぐ。
- （４）落葉性病害や果実腐敗性病害の発生が懸念されるので、天候回復後の防除を徹底す
る。

5 畜 産

- （１）畜舎が冠水した場合は、天候が回復しだい泥の排除、水洗を徹底し、乾燥させた後
消毒を行う。さらに、機械器具等も洗浄、消毒を徹底する。
- （２）飼料作物については、長期の滞水は、生育遅延や根腐れを引き起こすので、滞水し
たほ場は排水溝を掘るなど、すみやかな排水対策に努める。